

日本に求められる政治的リーダーシップ

学籍番号 21911026

氏名 飯田 葵大

概要

本研究では、現代日本における「求められる指導者像」を政治的リーダーシップの観点から今後のわが国における政治体制の在り方を明確にすることが目的である。

まず我が国日本では、内外交どちらにおいても大きな問題を抱えている。内向、国内問題に関しては少子高齢化問題。「失われた30年」と呼ばれる経済成長低迷、2040年問題と2054年問題、特に後者は75歳以上の人口割合が国民の4人に一人という、世界が今まで経験したことのない「超々高齢化社会」という未知の時代へと突入していく。国力低下は免れず、後進国となりえてしまう。

外交面においても大きな脅威がある。北朝鮮、中国による軍事的脅威と、ロシアによる軍事的脅威である。ロシアに関して言えば、ウクライナ侵攻により、エネルギー価格、物価上昇などに拍車をかけている。日本はこの三局面の軍事的脅威に対応しなければならず、憲法9条の改正が急がれる。冷戦以降最悪の国際情勢、もはや平和とは言い難く、いよいよ日本にも変革の時期が来たと考えてもいいだろう。変革にはより強く、信頼のある指導者が必要である。リーダーシップ論という概念は、古くから世界中で研究が行われてきた。先行研究の成果はいくつかのカテゴリーに分類される。「資質論」と「行動論」である。資質論は別名「偉人論」とも言われ、マキアヴェリの「君主論」などが有名である。そしてこの二つのカテゴリーの特徴は前者が政治学、歴史学が中心に論じられるものであり、後者が経営学、経済学が中心に論じられる。今回のテーマである政治的リーダーシップは資質論を中心的に論じる事となる。政治的リーダーシップは政治的指導者が公的な権力であり、殺生を伴うものでありため「資質」が重視される。経営学などの「行動論」でよくいわれるような、誰でもなれるものではない。

本論ではいくつかの先行研究の成果から、特に石井貫太郎氏が示したいくつかのタイプを基に、若年層を中心にアンケート調査を行う。その結果、石井貫太郎氏が示したタイプに基づき分析した歴史上の偉大な指導者と照らし合わせ、求められているリーダー像を明確にしたい。

